

愛媛大学

令和6年度新規リカレント教育プログラム 成果報告会

愛媛大学では第4期中期計画において、「全世代の人材が活躍する社会」の構築につながるリカレント教育の推進に向けて、地域及び地域産業に関する専門知識・技術を有し、地域活性化のリーダーとなれる「地域専門人材」の育成をはじめとして、社会情勢や地域のニーズの変化に応じた人材育成プログラムを、ステークホルダーと協働して開発し強化することを掲げています。

これに基づき、地域専門人材育成・リカレント教育支援センターでは、本学各部局におけるリカレント教育への取組を推進するため、新規のリカレント教育プログラムの開発・実施を支援しています。今回は、令和6年度に支援した4件のプログラムの成果報告会を下記のとおり開催します。

日時

10月29日（水）16：00～17:00

対象

どなたでもご参加いただけます。

会場

オンライン（zoom）

申込

以下のURLまたは二次元バーコードからお申込みください。

▼お申込みはこちら

<https://forms.office.com/r/yxc9ig71vk>



締切

10月27日（月）

主催

愛媛大学地域専門人材育成・リカレント教育支援センター

問合せ先

地域協働支援部 地域協働課 リカレント支援チーム

電話：089-927-8512

メール：rikasien@stu.ehime-u.ac.jp

プログラム

開 会 挨 拶

地域協働推進機構長 杉森 正敏

成 果 報 告

1. ボランティアコミュニティ創出研修プログラム（スポーツボランティア研修会） （社会共創学部 准教授 山中 亮）

本学では、スポーツボランティアネットワーク加盟団体として、2016年より社会共創学部を中心に、地域におけるスポーツを入り口としたボランティアの知識と実践を学ぶ研修会を継続的に実施しています。これまでに、先進地域への視察や、先進地のリーダーを講師として招聘する交流会を開催し、入門から実践までを網羅するプロトタイプ研修の運営・記録・改善に取り組んできました。

プログラム開発の取り組みでは、幅広い世代が社会的スキルや地域貢献力を高めながら、継続的に学び続けられるリカレント教育としての意義を持ち、地域との連携を強化することで、持続可能な学びの仕組みづくりを目指しています。

2. エンジニアリングモール共同利用分析機器を活用した講義・実習プログラム （大学院理工学研究科 講師 阪本 辰顕）

工学部附属高機能材料センターでは、エンジニアリングモールの活動として、地域企業技術者向けに有限要素法や無機材料のリカレント教育を継続的に実施しています。令和6年度も無機材料教育を東予産業創造センターで開催し、令和7年度からは共同利用分析機器を活用した新製品開発に役立つリカレント教育プログラムを実施予定です。令和6年度は実習準備として複数の分析装置を試行し、今後のリカレント教育に活用できるコンテンツ作成を目指します。

3. 「水素エネルギー」リカレント教育の開発 （大学院理工学研究科／工学部附属環境・エネルギー工学センター長 中原 真也）

カーボンニュートラル実現に向けた次世代エネルギー技術として注目される水素やe-Fuelに関する、実習を含むリカレント教育プログラムの開発を進めています。今年度は今治地区で技術者・工場管理者を対象に、水素の製造・利用・安全に関する講義、および水電解・燃料電池の組立・実験・評価に関する実習からなる講習会を開催。講義と実習を通じて知識と技術を融合させた講座の試行、さらにアンケートにより参加者のニーズや改善点を把握し、来年度以降の講座開講に向けた基盤整備を行いました。あわせて、全学の地域創生イノベーション育成プログラムとの連携も検討中です。

4. 企業でのDX推進と実現に向けたデータ活用の研修 （データサイエンスセンター 教授 野口 一人）

多くの企業がICTを導入したもののDX推進には課題が残り、働き方改革や生産性向上への関心は高い一方で、具体的な行動に迷う声も多いです。こうした課題を踏まえ、データサイエンスセンターは地域の社会人のデジタルスキル向上を支援し、個人の生産性向上を目指す研修プログラムを開発します。

令和6年度は「デジタルスキルを活かした個人レベルの生産性向上」をテーマに複数のセミナーを開催し、最新技術の習得を促進。リカレント教育として継続的な学びを提供し、地域のDX推進とキャリア形成を支援します。

閉 会 挨 拶

地域専門人材育成・リカレント教育支援センター長 羽藤 堅治